

(別紙-2-②)



令和 6 年 2 月 (日

倫理委員会委員長
山西 千晶 様

研究倫理審査申請書

下記の内容の研究および発表を取り組むために、倫理委員会での審査をお願いいたします。

【受付番号 ^{R5-33} ~~R6-4~~】

申請日	令和 6 年 2 月 1 日	
申請者 (実施責任者)	氏名	生塩 加奈 
	所属	医局
	職名	医師
所属長	氏名	山西 千晶 
研究テーマ	別紙添付	
発表先	学会報告	(学会名) 第49回 日本重症心身障害学会学術集会 (開催日) 2024年 11月8日・9日 (発表セッション)
	誌上発表	単著・共著 (出版誌名) (論文タイトル)
その他		

発表：第49回 日本重症心身障害学会学術集会 2024年11月8、9日

メンバー： 生塩 加奈、上村 由美

テーマ： 重症心身障害児者における腹部状態の検討

背景： 重症心身障害児(者)は腹部膨満、嘔気嘔吐、便秘、下痢、腹痛など腹部に問題を抱えていることが多い。嚥下障害を伴う場合は経口からの栄養摂取に制限があり、長期栄養管理を必要とすることも多く管理に関連した問題を併発し対応に難渋する。

原因として吞気、蠕動障害、術後の癒着、便秘などのほかに、機械的な閉塞を伴わない腸管拡張を来す疾患群である急性偽性腸閉塞症、慢性偽性腸閉塞症、巨大結腸症がある。

急性偽性腸閉塞症は急性・亜急性に進行する大腸が拡張する疾患である。

慢性偽性腸閉塞症は腸管の蠕動運動が障害されることにより、機械的な閉塞機転がないにもかかわらず消化管の病的拡張をきたし、腹部膨満、腹痛、嘔吐どの腸閉塞症状が長期にわたり持続してみられる疾患である。結果として慢性的で不可逆的な腸閉塞状態の総称で、様々な病態が含まれる。巨大結腸症は器質的異常を伴わずに慢性的に大腸が拡張し、腹部膨満や排便障害をきたす疾患である。

目的： 当園の重症心身障害児(者)の腹部状態を把握し、問題の原因を類推する。その中に急性偽性腸閉塞症、慢性偽性腸閉塞症、巨大結腸症と思われる症例の有無を調べる。腹部の問題について、対応を検討する。

意義：

重症心身障害児（者）の腹部状態を把握し急性偽性腸閉塞症、慢性偽性腸閉塞症、巨大結腸症を含めた原因を類推することで、鑑別診断の一助とし、今後の腹部症状の管理に役立てる。

方法： 診療録より、該当利用者の腹部所見を、日常の症状、レントゲン、便性状より何らかの原因による蠕動障害を持つ患者を抽出する。

その患者の手術既往、ADL、排便状態、食事内容にレントゲン所見を合わせて、腹部状態の悪化をきたしている原因を推測する。

腹部状態の悪化によると思われる栄養障害の合併も検索を加える。

各患者の状態改善につながったと思われる、要因を抽出し、今後の利用者の腹部状態の安定につなげる。

対象者： 当園に入所中の重症心身障害児(者)

期間： 2023年1月1日～2023年12月31日

その他： 利益相反なし